

講義コード	D350100101	科目ナンバリング	135F642
講義名	博士論文指導(ドイツ語ドイツ文学専攻)		
英文科目名	Supervision for Doctoral Thesis		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	D 1年～3年
時間割	集中(通年) その他 集中講義 遠隔授業		

授業概要

博士論文の指導を行う。

到達目標

指導教員(主査および副査)から自身の博士論文に関する具体的な助言を得て、論文の内容を改良することができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	論文指導
第3回	論文指導
第4回	論文指導
第5回	論文指導
第6回	論文指導
第7回	論文指導
第8回	論文指導
第9回	論文指導
第10回	論文指導
第11回	論文指導
第12回	論文指導
第13回	論文指導
第14回	総括
第15回	第1学期における到達度確認
第16回	第2学期の目標設定
第17回	論文指導
第18回	論文指導
第19回	論文指導
第20回	論文指導
第21回	論文指導
第22回	論文指導
第23回	論文指導
第24回	論文指導
第25回	論文指導
第26回	論文指導
第27回	論文指導
第28回	論文指導
第29回	総括
第30回	第2学期における到達度確認

授業方法(対面授業の場合)

新型コロナウイルス感染症の収束が明らかになれば、対面で指導することもある。

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔でZoomを用いて行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に問題点を整理しておくこと(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	100%	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

年度末に研究成果レポートを提出。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

年度末に提出される研究成果レポートに関しては、コメントを付して返却する。

その他

主査の教員と綿密に連絡をとること。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350100101	科目ナンバリング	135F641
講義名	修士論文指導(ドイツ語ドイツ文学専攻)		
英文科目名	Supervision for Master's Thesis		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	M 1年～2年
時間割	集中(通年) その他 集中講義 遠隔授業		

授業概要

修士論文の指導を行う。

到達目標

指導教員(主査および副査)から自身の修士論文に関する具体的な助言を得て、論文の内容を改良することができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	論文指導
第3回	論文指導
第4回	論文指導
第5回	論文指導
第6回	論文指導
第7回	論文指導
第8回	論文指導
第9回	論文指導
第10回	論文指導
第11回	論文指導
第12回	論文指導
第13回	論文指導
第14回	総括
第15回	第1学期における到達度確認
第16回	第2学期の目標設定
第17回	論文指導
第18回	論文指導
第19回	論文指導
第20回	論文指導
第21回	論文指導
第22回	論文指導
第23回	論文指導
第24回	論文指導
第25回	論文指導
第26回	論文指導
第27回	論文指導
第28回	論文指導
第29回	総括
第30回	第2学期における到達度確認

授業方法(対面授業の場合)

新型コロナウイルス感染症の収束が明らかになれば、対面で指導することもある。

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔でZoomを用いて行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に問題点を整理しておくこと(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	100%	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

年度末に研究成果レポートを提出。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

年度末に提出される研究成果レポートに関しては、コメントを付して返却する。

その他

主査の教員と綿密に連絡をとること。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350200101	科目ナンバリング	135F611
講義名	◆ドイツ語学特殊研究(1) (学部: 言語・情報コース 専門演習) (大学院)		
英文科目名	Studies in the German Language		
担当者名	MEYER, Thomas Horst		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrwerk Aspekte neu C1 (Klett Verlag), das eine Einarbeitung in themenbezogenen Wortschatz und Grammatik auf dem Niveau C1 bietet. Die Themen umfassen im Wesentlichen gesellschaftliche Felder wie Medien, Bildung, Beruf, Wirtschaft und Lifestyle in aktuellen Ausprägungen und Problemkonstellationen.

到達目標

Ausweitung des Wortschatzes auf C1-Niveau, Verbesserung des Lese- und Hörverständnisses sowie Übung des sprachlichen Ausdrucks anhand von aktuellen Themen.
Deutschkenntnisse auf dem Niveau von C1 werden vorausgesetzt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Vorstellung des Kurses / Einführung
第2回	Zeitgefühl I
第3回	Zeitgefühl II
第4回	Engagement in Vereinen
第5回	Handynutzung I
第6回	Handynutzung II
第7回	Probleme in Wohngemeinschaften
第8回	Porträt: Dinge des Alltags
第9回	Vor- und Nachteile moderner Medien
第10回	Schlagfertigkeit
第11回	Sprachen lernen
第12回	Dialekte I
第13回	Dialekte II
第14回	Porträt: LaBrassBanda
第15回	Zusammenfassung

授業方法(対面授業の場合)

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrbuch Aspekte neu Mittelstufe Deutsch C1. Je nach Größe des Kurses sollen die Teilnehmer in Einzel- oder Partnerarbeit Texte erarbeiten und Aufgaben lösen, die später im Plenum oder in Gruppen besprochen werden. An die Texte schließen sich kurze Grammatikerläuterungen und dazugehörige Übungen an. Das erworbene Wissen kann im Anschluss in weiteren schriftlichen Übungen, Hörverstehen-Übungen oder Diskussionsaufgaben erprobt werden. Je nach Problem- und Interessenlage der Teilnehmer kann der Fokus auf schriftliche, mündliche oder Hörverstehen-Aufgaben gelegt werden.

授業方法(遠隔授業の場合)

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrbuch Aspekte neu Mittelstufe Deutsch C1. Die Teilnehmer sollen in der Regel eigenständig Texte erarbeiten und Aufgaben lösen, die später gemeinsam in der Zoom Sitzung oder in Gruppen in Breakout Räumen besprochen werden. An die Texte schließen sich kurze Grammatikerläuterungen und dazugehörige Übungen an. Das erworbene Wissen kann im Anschluss in weiteren schriftlichen Übungen, Hörverstehen-Übungen oder Diskussionsaufgaben erprobt werden. Je nach Problem- und Interessenlage der Teilnehmer kann der Fokus auf schriftliche, mündliche oder Hörverstehen-Aufgaben gelegt werden.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts können vereinzelt Hausaufgaben von geringem Umfang gestellt werden (Fertigstellung von Übungen, Materialauswahl für den folgenden Unterricht u.ä.)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	mündliche Prüfung
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		

中間テスト

レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback

教科書

Aspekte neu C1: Mittelstufe Deutsch, Lehr- und Arbeitsbuch, Ute Koithan et al, Klett Verlag, 2016, 978-3126050371

教科書コメント

Teilband 1 (Lektion 1-5) ist ausreichend.

Das Arbeitsbuch braucht nicht angeschafft zu werden.

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350200102	科目ナンバリング	135F611
講義名	◆ドイツ語学特殊研究(2) (学部: 言語・情報コース 専門演習) (大学院)		
英文科目名	Studies in the German Language		
担当者名	MEYER, Thomas Horst		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrwerk Aspekte neu C1 (Klett Verlag), das eine Einarbeitung in themenbezogenen Wortschatz und Grammatik auf dem Niveau C1 bietet. Die Themen umfassen im Wesentlichen gesellschaftliche Felder wie Medien, Bildung, Beruf, Wirtschaft und Lifestyle in aktuellen Ausprägungen und Problemkonstellationen.

到達目標

Ausweitung des Wortschatzes auf C1-Niveau, Verbesserung des Lese- und Hörverständnisses sowie Übung des sprachlichen Ausdrucks anhand von aktuellen Themen.
Deutschkenntnisse auf dem Niveau von C1 werden vorausgesetzt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung/Stellenanzeigen
第2回	Ein "bunter" Lebenslauf
第3回	Studium oder Ausbildung I
第4回	Studium oder Ausbildung II
第5回	Multitasking
第6回	Soft Skills
第7回	Junge Unternehmen
第8回	Der Kohlenpott: Die Entwicklung des Ruhrgebiets
第9回	Gewissensfragen
第10回	Globalisierung I
第11回	Globalisierung II
第12回	Crowdfunding I
第13回	Crowdfunding II
第14回	Porträt: Petra Jenner
第15回	Zusammenfassung

授業方法(対面授業の場合)

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrbuch Aspekte neu Mittelstufe Deutsch C1. Je nach Größe des Kurses sollen die Teilnehmer in Einzel- oder Partnerarbeit Texte erarbeiten und Aufgaben lösen, die später im Plenum oder in Gruppen besprochen werden. An die Texte schließen sich kurze Grammatikerläuterungen und dazugehörige Übungen an. Das erworbene Wissen kann im Anschluss in weiteren schriftlichen Übungen, Hörverstehen-Übungen oder Diskussionsaufgaben erprobt werden. Je nach Problem- und Interessenlage der Teilnehmer kann der Fokus auf schriftliche, mündliche oder Hörverstehen-Aufgaben gelegt werden.

授業方法(遠隔授業の場合)

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrbuch Aspekte neu Mittelstufe Deutsch C1. Die Teilnehmer sollen in der Regel eigenständig Texte erarbeiten und Aufgaben lösen, die später gemeinsam in der Zoom Sitzung oder in Gruppen in Breakout Räumen besprochen werden. An die Texte schließen sich kurze Grammatikerläuterungen und dazugehörige Übungen an. Das erworbene Wissen kann im Anschluss in weiteren schriftlichen Übungen, Hörverstehen-Übungen oder Diskussionsaufgaben erprobt werden. Je nach Problem- und Interessenlage der Teilnehmer kann der Fokus auf schriftliche, mündliche oder Hörverstehen-Aufgaben gelegt werden.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts können vereinzelt Hausaufgaben von geringem Umfang gestellt werden (Fertigstellung von Übungen, Materialauswahl für den folgenden Unterricht u.ä.)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	mündliche Prüfung
中間テスト		

中間テスト

レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback

教科書

Aspekte neu C1: Mittelstufe Deutsch, Lehr- und Arbeitsbuch, Ute Koithan et al, Klett Verlag, 2016, 978-3126050371

教科書コメント

Teilband 1 (Lektion 1-5) ist ausreichend.

Das Arbeitsbuch braucht nicht angeschafft zu werden.

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350200103	科目ナンバリング	135F611
講義名	◆ドイツ語学特殊研究(3) (学部: 言語・情報コース 専門演習) (大学院)		
副題	中世ドイツ語学・文学入門		
英文科目名	Studies in the German Language		
担当者名	平井 敏雄		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 木曜日 5時限 遠隔授業		

授業概要

現代ドイツ文化の源流が形作られた中世という時代、ドイツ語圏では現代のドイツ語とは様々な点で異なる言語が話されていました。また、中世最盛期の12～13世紀ごろには、宮廷の騎士階級による詩の文学が大いに栄え、ドイツ文学史上最初の黄金時代と呼ばれています。本授業では、中世盛期に用いられた「中高ドイツ語」の概要を理解し、ドイツ語の歴史および周辺諸言語との関係についての基本的な知識を学ぶと共に、中世文学に触れ、中世の文化・社会・生活全般に関する理解を深めていきます。その際に、現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容をもったドイツ語テキストを読み解く能力の向上を目指します。

到達目標

- ・中高ドイツ語を中心に、ドイツ語の歴史の概略をつかみ、現代ドイツ語に見られるさまざまな事象の起源を理解することで、現代語への理解をいっそう深める。また、周辺諸言語との関係についての知識を得る。
- ・現代ヨーロッパの源流である、中世の文化・社会・生活に関する知識・理解を深める。
- ・現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容のテキストに親しみ、ドイツ語の読解力を高める。
- ・中高ドイツ語の文法を学習し、辞書を頼りに原典購読に挑戦する。ハルトマン・フォン・アウエの宮廷叙事詩『あわれなハインリヒ』の一部を読むことを予定しています。

授業内容

実施回	内容
第1回	序・中世とは
第2回	ドイツ語の歴史
第3回	続き
第4回	中高ドイツ語
第5回	続き
第6回	中世の社会・生活
第7回	続き
第8回	中世ドイツ文学
第9回	続き
第10回	英雄叙事詩
第11回	宮廷叙事詩
第12回	恋愛抒情詩
第13回	続き
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り

授業計画コメント

上記内容は授業で扱うピックを挙げたもので、この順番で学習するとは限りません。

授業方法(対面授業の場合)

中世の言語・文化に関する現代ドイツ語の文献の講読、中高ドイツ語・ドイツ語の歴史の概要の学習、中高ドイツ語文法の学習および原典購読などを予定していますが、具体的には、受講者の人数・能力・関心に応じて決定します。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを用いたリアルタイム遠隔授業を行います。動画は使用せず、画面の共有と音声のやり取りで進めますので、必要なデータ通信量はそれほど多くはありませんが(1回につき100～150MB程度)、受講を希望する人は必要な環境を整えておいてください。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語による参考資料の指定箇所には、毎回必ずあらかじめ目を通してきて下さい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		

レポート

小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験の成績・授業中の課題への取り組みなどによって総合的に評価します。
博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に説明します。

教科書コメント

教材はプリントを使用します。参考文献等は授業中に適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350200104	科目ナンバリング	135F611
講義名	◆ドイツ語学特殊研究(4) (学部: 言語・情報コース 専門演習) (大学院)		
副題	中世ドイツ語学・文学入門		
英文科目名	Studies in the German Language		
担当者名	平井 敏雄		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 木曜日 5時限 遠隔授業		

授業概要

第1学期に引き続き、中世盛期に用いられた「中高ドイツ語」の概要を理解し、ドイツ語の歴史および周辺諸言語との関係についての基本的な知識を学ぶと共に、中世文学に触れ、中世の文化・社会・生活全般に関する理解を深めていきます。その際に、現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容をもったドイツ語テキストを読み解く能力の向上を目指します。なお、授業の内容上は第1学期の続きとなりますが、第2学期のみの受講も可能です。

到達目標

- ・中高ドイツ語を中心に、ドイツ語の歴史の概略をつかみ、現代ドイツ語に見られるさまざまな事象の起源を理解することで、現代語への理解をいっそう深める。また、周辺諸言語との関係についての知識を得る。
- ・現代ヨーロッパの源流である、中世の文化・社会・生活に関する知識・理解を深める。
- ・現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容のテキストに親しみ、ドイツ語の読解力を高める。
- ・辞書と文法書を頼りに、中高ドイツ語の原典購読に挑戦する。ハルトマン・フォン・アウエの宮廷叙事詩『あわれなハインリヒ』の一部を読むことを予定しています。

授業内容

実施回	内容
第1回	中世ドイツの文化
第2回	続き
第3回	現代の中世観
第4回	続き
第5回	ドイツ語と周辺諸言語の関係・歴史
第6回	続き
第7回	歴史言語学的観点から見た現代ドイツ語
第8回	続き
第9回	中世ドイツ文学の詩人たち
第10回	続き
第11回	続き
第12回	続き
第13回	続き
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り

授業計画コメント

上記内容は授業で扱うピックを挙げたもので、この順番で学習するとは限りません。

授業方法(対面授業の場合)

中世の言語・文化に関する現代ドイツ語の文献の講読、中高ドイツ語・ドイツ語の歴史の概要の学習、中高ドイツ語原典購読、小発表およびディスカッションなどを予定していますが、具体的には、受講者の人数・能力・関心に応じて決定します。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを用いたリアルタイム遠隔授業を行います。動画は使用せず、画面の共有と音声のやり取りで進めますので、必要なデータ通信量はそれほど多くはありませんが(1回につき100-150MB程度)、受講を希望する人は必要な環境を整えておいてください。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語による参考資料の指定箇所には、毎回必ずあらかじめ目を通してきて下さい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		

小テスト

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験の成績・授業中の課題への取り組みなどによって総合的に評価します。
博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なる基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に説明します。

教科書コメント

教材はプリントを使用します。参考文献等は授業中に適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350202201	科目ナンバリング	135F622
講義名	◆ドイツ文学特殊研究(1) (学部: 文学・文化コース 専門演習) (大学院)		
副題	I. Bachmann: Lyrik und Prosa		
英文科目名	Studies in German Literature		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 火曜日 2時限 対面授業		

授業概要

Die österreichische Schriftstellerin und Lyrikerin Ingeborg Bachmann (1926–1973) gehört zu den wichtigsten Autorinnen des 20. Jahrhunderts. Ihr nach dem Zweiten Weltkrieg entstandenes Werk kann mit seinem gesellschaftskritischen Blick als beispielhaft für die deutschsprachige Nachkriegsliteratur angesehen werden. Als Lyrikerin versuchte Bachmann zunächst die Grenzen der Sprachen zu überschreiten; später verzichtete sie aber darauf, Gedicht zu schreiben und wandte sich der Prosa zu, um Geschichten zu entwerfen, die sich insbesondere mit gesellschaftlichen Herrschaftsformen (wie dem Patriarchat) auseinandersetzen. Im Seminar soll dieses vielfältige Werk unter verschiedenen Fragestellungen (wie sprachlich-literarischen, philosophischen, politischen) erarbeitet werden.

到達目標

Die Studierenden lernen an exemplarischen Beispielen der Lyrik und Prosa Bachmanns grundlegende Texte der deutschsprachigen Literatur kennen und erwerben, neben literatur- und kulturgeschichtlichem Wissen, Zugänge zu verschiedenen Interpretationsmöglichkeiten dieser Texte und zum Verständnis unterschiedlicher Literaturformen.

授業内容

実施回 内容

- | 実施回 | 内容 |
|------|--|
| 第1回 | Einführung; Überblick; Biografie Bachmanns |
| 第2回 | Biografie Bachmanns; zeitgeschichtlicher Kontext |
| 第3回 | Lyrik Bachmanns "Ausfahrt" |
| 第4回 | "Ausfahrt" Fortsetzung |
| 第5回 | Lyrik Bachmanns "Die gestundete Zeit" |
| 第6回 | "Die gestundete Zeit" Fortsetzung |
| 第7回 | Lyrik Bachmanns "Früher Mittag" |
| 第8回 | "Früher Mittag" Fortsetzung |
| 第9回 | Lyrik Bachmanns "Erklär mir, Liebe" |
| 第10回 | "Erklär mir, Liebe" Fortsetzung |
| 第11回 | Lyrik Bachmanns "Reklame" |
| 第12回 | "Reklame" Fortsetzung |
| 第13回 | Lyrik Bachmanns "Schwarzer Walzer" |
| 第14回 | "Schwarzer Walzer" Fortsetzung |
| 第15回 | Abschlussprüfung (Test) |

授業方法(対面授業の場合)

Gruppendiskussionen, Gruppenarbeit, Impulsanregungen durch die Teilnehmer/Teilnehmerinnen (Referate) und den Seminarleiter; Mediennutzung

授業方法(遠隔授業の場合)

Gruppendiskussionen, Gruppenarbeit in break-rooms; Impulsanregungen durch die Teilnehmer/Teilnehmerinnen (Referate) und den Seminarleiter; Mediennutzung

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Eigene Lektüren, Vorbereitungen und Erledigungen von Arbeitsaufträgen sind im Umfang von ca. 60 Minuten zur Seminarvorbereitung notwendig. Bei Referatsübernahme erhöht sich die Vorbereitungszeit.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)

%

その他(備考欄を参照)		
-------------	--	--

成績評価コメント

Jeder Teilnehmer / jede Teilnehmerin am Seminar soll einen ausführlichen Vortrag (eine Präsentation) halten, regelmäßig am Unterricht teilnehmen, sich an der Diskussion beteiligen und den Test mitschreiben bzw. an der Abschlussprüfung teilnehmen. Die Leistungsbewertung setzt sich aus diesen Teilen (Präsentation, Unterrichtsteilnahme und Testergebnis) zusammen.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter spricht mit jedem Teilnehmer/jeder Teilnehmerin über sein/ihr Referat vor und nach der Präsentation. Weiter kann jederzeit über das Diskussionsverhalten, den Unterricht etc. gesprochen werden. Dies kann nach den Unterrichtsstunden oder in der Sprechstunde geschehen.

教科書コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

参考文献コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350202202	科目ナンバリング	135F622
講義名	◆ドイツ文学特殊研究(2) (学部: 文学・文化コース 専門演習) (大学院)		
副題	I. Bachmann: Lyrik und Prosa II		
英文科目名	Studies in German Literature		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 火曜日 2時限 対面授業		

授業概要

Die österreichische Schriftstellerin und Lyrikerin Ingeborg Bachmann (1926–1973) gehört zu den wichtigsten Autorinnen des 20. Jahrhunderts. Ihr nach dem Zweiten Weltkrieg entstandenes Werk kann mit seinem gesellschaftskritischen Blick als beispielhaft für die deutschsprachige Nachkriegsliteratur angesehen werden. Als Lyrikerin versuchte Bachmann zunächst die Grenzen der Sprachen zu überschreiten; später verzichtete sie aber darauf, Gedicht zu schreiben und wandte sich der Prosa zu, um Geschichten zu entwerfen, die sich insbesondere mit gesellschaftlichen Herrschaftsformen (wie dem Patriarchat) auseinandersetzen. Im Seminar soll dieses vielfältige Werk unter verschiedenen Fragestellungen (wie sprachlich-literarischen, philosophischen, politischen) erarbeitet werden.

到達目標

Die Studierenden lernen an exemplarischen Beispielen der Lyrik und Prosa Bachmanns grundlegende Texte der deutschsprachigen Literatur kennen und erwerben, neben literatur- und kulturgeschichtlichem Wissen, Zugänge zu verschiedenen Interpretationsmöglichkeiten dieser Texte und zum Verständnis unterschiedlicher Literaturformen.

授業内容

実施回 内容

- | 実施回 | 内容 |
|------|---|
| 第1回 | Wiederholung der Ergebnisse des letzten Semesters |
| 第2回 | Lyrik Bachmanns: "Liebe: Dunkler Erdteil" |
| 第3回 | "Liebe: Dunkler Erdteil" Fortsetzung |
| 第4回 | Lyrik Bachmanns: "Böhmen liegt am Meer" |
| 第5回 | "Böhmen liegt am Meer" Fortsetzung |
| 第6回 | Hörspiel Bachmanns: "Der gute Gott von Manhattan" |
| 第7回 | "Der gute Gott von Manhattan" Fortsetzung I |
| 第8回 | "Der gute Gott von Manhattan" Fortsetzung II |
| 第9回 | Prosa Bachmanns: "Das dreißigste Jahr" |
| 第10回 | "Das dreißigste Jahr" Fortsetzung I |
| 第11回 | "Das dreißigste Jahr" Fortsetzung II |
| 第12回 | Prosa Bachmanns: "Drei Wege zum See" |
| 第13回 | "Drei Wege zum See" Fortsetzung |
| 第14回 | Abschlussdiskussion |
| 第15回 | Abschlussprüfung (Test) |

授業方法(対面授業の場合)

Gruppendiskussion, Gruppenarbeit, Impulsanregungen durch die Teilnehmer / Teilnehmerinnen (Referate) und den Seminarleiter; Mediennutzung

授業方法(遠隔授業の場合)

Gruppendiskussion, Gruppenarbeit in break-out-rooms, Impulsanregungen durch die Teilnehmer / Teilnehmerinnen (Referate) und den Seminarleiter; Mediennutzung

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Eigene Lektüren. Vorbereitung und Erledigung von Arbeitsaufträgen sind im Umfang von ca. 60 Minuten zur Seminarvorbereitung notwendig. Bei Referatsübernahme erhöht sich die Vorbereitungszeit.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)

%

その他(備考欄を参照)		
-------------	--	--

成績評価コメント

Jeder Teilnehmer / jede Teilnehmerin am Seminar soll einen ausführlichen Vortrag (eine Präsentation) halten, regelmäßig am Unterricht teilnehmen, sich an der Diskussion beteiligen und den Test mitschreiben bzw. an der Abschlussprüfung teilnehmen. Die Leistungsbewertung setzt sich aus diesen Teilen (Präsentation, Unterrichtsteilnahme und Testergebnis) zusammen.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter spricht mit jedem Teilnehmer / jeder Teilnehmerin über sein / ihr Referat vor und nach der Präsentation. Weiter kann jederzeit über das Diskussionsverhalten, den Unterricht etc. gesprochen werden. Dies kann nach den Unterrichtsstunden oder in der Sprechstunde geschehen.

教科書コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

参考文献コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350300101	科目ナンバリング	135F613
講義名	ドイツ語学演習(1)(大学院)		
副題	言語による数の表現(1)		
英文科目名	Seminar in German Language		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	M1年～2年 / D1年～3年
時間割	第1学期 金曜日 3時限 対面授業		

授業概要

「数」は、数学における対象であるとともに、言語で表現できる対象でもある。「数の概念」というと、数学的に捉えるのが常識のように考えられるが、実際には個別言語ごとに、さらに、数えられる対象のモノに応じて違う表現がなされる。(1)のように単純に2つのリンゴを持っているという例を考えても、ドイツ語や英語と違い、日本語では、(2a)のような言い方はできず、(2b)のような表現をする。

- (1) Ich habe zwei Äpfel. (I have two apples.)
(2) a.* 私は2リンゴを持っている。
b. 私は{2つ/2個}リンゴを持っている。

このように、数の表現は、その数えられる対象物との関係で捉えられ、可算性とも関連を持つ。背後には、「モノの数を数える時、言語的に何が表現されているのか?」、「複数形の意味とは何か?」、「数えられないモノとは何か?」という認知意味論的問題がある。

今期の演習では、このような言語による数の概念の取扱いを、二層意味論の枠組みでの研究 Wiese (1997) を読みながら考える。

到達目標

- ・ドイツ語と日本語の数量詞表現の違いを説明できるようになる。
- ・二層意味論の枠組みで、「数の概念」がどのように扱われているのかを説明できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入:問題のありかの説明、発表の仕方のガイドライン、参考文献の紹介
第2回	演習参加者による発表、質疑応答、議論:数量詞に関する概観(1)
第3回	演習参加者による発表、質疑応答、議論:数量詞に関する概観(2)
第4回	演習参加者による発表、質疑応答、議論:二層意味論の概観(1)
第5回	演習参加者による発表、質疑応答、議論:二層意味論の概観(2)
第6回	演習参加者による発表、質疑応答、議論:二層意味論における概念構造(1)
第7回	演習参加者による発表、質疑応答、議論:二層意味論における概念構造(2)
第8回	演習参加者による発表、質疑応答、議論:二層意味論における概念構造(3)
第9回	演習参加者による発表、質疑応答、議論:数量詞構文のこれまでの研究(1)
第10回	演習参加者による発表、質疑応答、議論:数量詞構文のこれまでの研究(2)
第11回	演習参加者による発表、質疑応答、議論:数量詞構文のこれまでの研究(3)
第12回	演習参加者による発表、質疑応答、議論:「数」と「数」の概念(1)
第13回	演習参加者による発表、質疑応答、議論:「数」と「数」の概念(2)
第14回	演習参加者による発表、質疑応答、議論:「数」と「数」の概念(2)
第15回	今学期の演習の総括

授業方法(対面授業の場合)

授業は演習方式で対面で行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

新型コロナウイルス感染症の急拡大が明らかになった場合は、オンラインで授業を行う可能性もあります。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

演習で用いる資料は、あらかじめ配布しますので、各自資料を読み、不明な箇所をまとめておくことが求められます(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		

中間テスト

レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	積極的に議論することを高く評価します。
その他(備考欄を参照)	50 %	口頭発表

成績評価コメント

- ・口頭発表やレポートでは、研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とします。
- ・レポートは、問題設定、論理性、実証性、形式、独自性の基準で評価します。
- ・博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なる基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、LMSで受け付け、LMSを使って返却されます。

教科書コメント

主に参照する Wiese (1997) は、学科書庫にあります。

参考文献コメント

参考文献は、第一回の授業で指示します。

履修上の注意

履修者は、後期の「ドイツ語学演習 (2)」も併せて受講することが望ましい。

その他

- ・さまざまな言語に興味を持ち、知的好奇心にあふれた積極的学生の参加を希望します。
- ・ドイツ語が好きな人を歓迎します。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350300102	科目ナンバリング	135F613
講義名	ドイツ語学演習(2)(大学院)		
副題	言語による数の表現(2)		
英文科目名	Seminar in German Language		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	M1年～2年 / D1年～3年
時間割	第2学期 金曜日 3時限 対面授業		

授業概要

1学期に引き続き、言語による数の表現を扱う。モノを数えるのに使う言語表現において、日本語では分類詞(Klassifikator)が中心に用いられる。一方で、西欧語に分類詞は存在しないと考えられているが、さまざまな種類の数量詞表現は存在する。今学期は、日本語の分類詞を使った表現とドイツ語の数量詞表現の比較を行う。また、それらの表現がどのような意味を表現しているのかを認知言語学的な視点から考える。

到達目標

- ・日本語の分類詞の持つ機能を説明できるようになる。
- ・ドイツ語の数量詞表現を日本語の分類詞の機能と関連づけて説明できるようになる。

授業内容

実施回 内容

- | 実施回 | 内容 |
|------|--|
| 第1回 | 導入:問題のありかの説明、発表の仕方のガイドライン、参考文献の紹介 |
| 第2回 | 演習参加者による発表、質疑応答、議論:分類詞に関する概観(1) |
| 第3回 | 演習参加者による発表、質疑応答、議論:分類詞に関する概観(2) |
| 第4回 | 演習参加者による発表、質疑応答、議論:分類詞に関するこれまでの研究(1) |
| 第5回 | 演習参加者による発表、質疑応答、議論:分類詞に関するこれまでの研究(2) |
| 第6回 | 演習参加者による発表、質疑応答、議論:分類詞に関するこれまでの研究(3) |
| 第7回 | 演習参加者による発表、質疑応答、議論:日本語の分類詞と他言語表現の比較(1) |
| 第8回 | 演習参加者による発表、質疑応答、議論:日本語の分類詞と他言語表現の比較(2) |
| 第9回 | 演習参加者による発表、質疑応答、議論:日本語の分類詞と他言語表現の比較(3) |
| 第10回 | 演習参加者による発表、質疑応答、議論:日本語の分類詞と他言語表現の比較(4) |
| 第11回 | 演習参加者による発表、質疑応答、議論:分析に向けての理論的提案(1) |
| 第12回 | 演習参加者による発表、質疑応答、議論:分析に向けての理論的提案(2) |
| 第13回 | 演習参加者による発表、質疑応答、議論:分析に向けての理論的提案(3) |
| 第14回 | 演習参加者による発表、質疑応答、議論:分析に向けての理論的提案(4) |
| 第15回 | 今学期の演習の総括 |

授業方法(対面授業の場合)

授業は演習方式で対面で行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

新型コロナウイルス感染症の急拡大が明らかになった場合は、オンラインで授業を行う可能性もあります。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

演習で用いる資料は、あらかじめ配布しますので、各自資料を読み、不明な箇所をまとめておくことが求められます(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	積極的に議論することを高く評価します。
その他(備考欄を参照)	50 %	口頭発表

成績評価コメント

- ・口頭発表やレポートでは、研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とします。
- ・レポートは、問題設定、論理性、実証性、形式、独自性の基準で評価します。

・博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、LMSで受け付け、LMSを使って返却されます。

教科書コメント

教科書はありません。

参考文献コメント

参考文献は、第一回の授業で指示します。

履修上の注意

履修者は、後期の「ドイツ語学演習(1)」も併せて受講することが望ましい。

その他

- ・さまざまな言語に興味を持ち、知的好奇心にあふれた積極的学生の参加を希望します。
- ・ドイツ語が好きな人を歓迎します。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350300103	科目ナンバリング	135F613
講義名	ドイツ語学演習(3)(大学院)		
副題	ドイツ語の時制・相・法		
英文科目名	Seminar in German Language		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 火曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

時制(Tempus)、相(Apeskt)、法(Modus)は、多くの言語において、形態的、意味的に複雑に結びついているが、ドイツ語においてもその例外ではない。この授業では、Heinhold(2015)を講読しながら、ドイツ語の時制・相・法の性質や現象について議論し、理解を深めていく。

到達目標

- ・ドイツ語の時制・相・法について、総合的に俯瞰して、その性質を述べることができる
- ・ドイツ語の時制・相・法についての具体的な現象を例示することができる。
- ・言語学の文献をドイツ語で無理なく読解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入:この授業の進め方
第2回	Heinold (2015) 講読とディスカッション
第3回	Heinold (2015) 講読とディスカッション
第4回	Heinold (2015) 講読とディスカッション
第5回	Heinold (2015) 講読とディスカッション
第6回	Heinold (2015) 講読とディスカッション
第7回	Heinold (2015) 講読とディスカッション
第8回	Heinold (2015) 講読とディスカッション
第9回	Heinold (2015) 講読とディスカッション
第10回	Heinold (2015) 講読とディスカッション
第11回	Heinold (2015) 講読とディスカッション
第12回	参加者発表
第13回	参加者発表
第14回	まとめとふりかえり
第15回	総括

授業方法(対面授業の場合)

コロナ感染状況が落ちついたら、個人研究室あるいは院生室で講読を主にした演習形式の授業にすることもある。

授業方法(遠隔授業の場合)

基本的にZoomをしようした同時配信型授業にし、講読を主にした演習形式の授業にする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回の予習に3時間程度が必要である。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点は、毎回の講読に関する予習と理解度に加えて、積極的にディスカッションに加わったかを評価する。レポートは、時制・相・法について独自の視点を持って論じられているかを評価する。博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基

準で評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

LMS(manaba)によりフィードバックする。

教科書

Tempus, Modus und Aspekt im Deutschen:narr Studienbücher,Simone Heinold,Narr Franke Attempto Verlag,2015,978-3-8233-6867-0

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350300104	科目ナンバリング	135F613
講義名	ドイツ語学演習(4)(大学院)		
副題	ヴァレンツ理論と構文文法		
英文科目名	Seminar in German Language		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 火曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

ヴァレンツ理論とは、動詞を中心として文を分析する言語理論の一つであり、特にドイツ語の分析や教授の分野で発展を遂げた。一方、構文文法は、認知言語学に基づく文法理論で、構文は単に深層構造から生成されるのではなく、それ自体で機能が意味を持つと考える。動詞の項構造を考えると、ヴァレンツ理論と構文文法は全く正反対のことを言っているのか、そもそも両者の目指すところは同じなのか、そもそも動詞は文の形成でどのような役割を果たすのか。本演習ではヴァレンツ理論と構文文法の接点に関して、最新の議論を追っていく。主に、Engelberg et al (2015)に収録されている論文を毎回1つ取り上げて議論していく。

到達目標

- ・ヴァレンツ理論と構文文法の対照して理解し、その類似点と相違点を説明できるようになる。
- ・文形成における動詞の役割についての議論を理解し、自分なりの考えを持てるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の進め方、一般的注意、参考文献の指示)
第2回	参加者による発表とディスカッション
第3回	参加者による発表とディスカッション
第4回	参加者による発表とディスカッション
第5回	参加者による発表とディスカッション
第6回	参加者による発表とディスカッション
第7回	参加者による発表とディスカッション
第8回	参加者による発表とディスカッション
第9回	参加者による発表とディスカッション
第10回	参加者による発表とディスカッション
第11回	参加者による発表とディスカッション
第12回	参加者による発表とディスカッション
第13回	参加者による発表とディスカッション
第14回	参加者による発表とディスカッション
第15回	授業の総括

授業方法(対面授業の場合)

対面授業の場合は、個人研究室もしくは院生室で演習形式で行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

基本的にZoomを使用した同時配信型の演習形式で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

あらかじめ配布した資料を読み理解する(120分)。授業後は、その内容を復習し、関連文献を読む(60分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

目標に関して、十分に達しているかを見ます。

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、問題設定、論理性、実証性、形式、独自性の基準で採点した後、返却されます。

教科書

Argumentstruktur zwischen Valenz und Konstruktion: Studien zur Deutschen Sprache, Stefan Engelberg / Meike Meliss / Kristel Proost / Edeltraud Winkler (Hrsg.), Narr Francke Attempto, 2015, 978-3823369608

教科書コメント

教科書は必ずしも購入する必要はありません。講読する論文はコピー、あるいは、pdfで配布します。

参考文献コメント

授業中に適宜参考文献を追加します。

履修上の注意

第1学期の演習も併せて履修することが望まれます。

その他

ドイツ語の習得と分析に情熱を注げる学生を望みます。ドイツ語の高い読解力(CEFR基準でB2以上;独検で準1級以上)を持つことが望まれます。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350301201	科目ナンバリング	135F624
講義名	ドイツ文学演習(1)(大学院)		
副題	クラウス・マンを読む		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 火曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

20世紀ドイツを代表する作家トーマス・マンの息子クラウス・マン(1906～1949)が亡命中の1936年にパリで発表した代表作『メフィスト 出世物語』を読みます。同時にこの作家の軌跡を追うことで、ナチス時代の亡命者たちの活動について理解を深めます。1学期は「良人」の章から読みます。

到達目標

クラウス・マンの作品やナチス期の亡命者たちの活動についての知識を得、この時代への理解を深めること。研究に必要な倫理を学ぶこと。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	テキスト読解1
第3回	テキスト読解2
第4回	テキスト読解3
第5回	テキスト読解4
第6回	テキスト読解5
第7回	テキスト読解6
第8回	テキスト読解7
第9回	テキスト読解8
第10回	テキスト読解9
第11回	テキスト読解10
第12回	テキスト読解11
第13回	テキスト読解12
第14回	総括
第15回	到達度確認

授業方法(対面授業の場合)

演習形式で進めます。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoom使用)で、LMS(WebClass)で教材や資料を配信・配布します。ただし、全面的に対面式授業が実施されるようになった場合は、この授業も対面式で行います。演習形式で進めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定したテキストを事前に読み、翻訳してきてもらいます。また、毎週ミニ課題を出しますので、そのための調査をしてきてもらいます。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

翻訳等に対し、その都度コメントをします。

教科書コメント

授業中に指示します。

参考文献コメント

授業中に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350301202	科目ナンバリング	135F624
講義名	ドイツ文学演習(2)(大学院)		
副題	クラウス・マンを読む		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 火曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

20世紀ドイツを代表する作家トーマス・マンの息子クラウス・マン(1906～1949)が亡命中の1936年にパリで発表した代表作『メフィスト 出世物語』を読みます。同時にこの作家の軌跡を追うことで、ナチス時代の亡命者たちの活動について理解を深めます。1学期は「悪魔との契約」の章から読みます。

到達目標

クラウス・マンの作品やナチス期の亡命者たちの活動についての知識を得、この時代への理解を深めること。研究に必要な倫理を学ぶこと。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	テキスト読解1
第3回	テキスト読解2
第4回	テキスト読解3
第5回	テキスト読解4
第6回	テキスト読解5
第7回	テキスト読解6
第8回	テキスト読解7
第9回	テキスト読解8
第10回	テキスト読解9
第11回	テキスト読解10
第12回	テキスト読解11
第13回	テキスト読解12
第14回	総括
第15回	到達度確認

授業方法(対面授業の場合)

演習形式で進めます。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoom使用)で、LMS(WebClass)で教材や資料を配信・配布します。ただし、全面的に対面式授業が実施されるようになった場合は、この授業も対面式で行います。演習形式で進めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定したテキストを事前に読み、翻訳してきてもらいます。また、毎週ミニ課題を出しますので、そのための調査をしてきてもらいます。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

翻訳等に対し、その都度コメントをします。

教科書コメント

授業中に指示します。

参考文献コメント

授業中に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350301203	科目ナンバリング	135F624
講義名	ドイツ文学演習(3)(大学院)		
副題	ドイツ児童文学における「過去の克服」の実践		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 木曜日 2時限 対面授業		

授業概要

第二次世界大戦後のドイツ文学はナチス・ドイツの過去との対峙から始まりましたが、それは児童文学の場合も例外ではありません。例えば、「過去」とは一見、無関係なように見えるミヒャエル・エンデの作品も、絶滅戦争やユダヤ人の組織的殺人の根本にある徹底した合理的思考を批判しているという点で、過去と批判的に対峙していると言えます。

ドイツの児童文学をいわゆる「過去の克服」の文脈で読む場合、その文学が子ども向けに書かれている点、そしてその子どもが直接ナチス・ドイツの犯罪に加担していない点を考慮する必要があります。自らが直接関わったわけではない過去を児童文学の題材にすると、そこではどんな過去がどんなふう提示されるのでしょうか？この授業では、H. P. リヒターによる自伝的三部作、K. コルドンのベルリン三部作、R. イーザウの歴史改変SFを例に、児童文学における「過去の克服」の実践に迫ります。

到達目標

- ・作品を手掛かりに、戦後ドイツの歴史認識について理解を深める。
- ・大人向けに書かれた文学と子ども向けに書かれた文学の共通点と差異について理解を深める。
- ・作品について、その文学的特徴を分析できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	H. P. リヒター『あのころはフリードリヒがいた』(1961)①
第2回	H. P. リヒター『あのころはフリードリヒがいた』(1961)②
第3回	H. P. リヒター『ぼくたちもそこにいた』(1962)①
第4回	H. P. リヒター『ぼくたちもそこにいた』(1962)②
第5回	H. P. リヒター『若い兵士のとき』(1967)①
第6回	H. P. リヒター『若い兵士のとき』(1967)②
第7回	K. コルドン『赤い水兵(上)』(1984)①
第8回	K. コルドン『赤い水兵(上)』(1984)②
第9回	K. コルドン『赤い水兵(下)』(1984)①
第10回	K. コルドン『赤い水兵(下)』(1984)②
第11回	K. コルドン『壁を背にして(上)』(1990)①
第12回	K. コルドン『壁を背にして(上)』(1990)②
第13回	K. コルドン『壁を背にして(下)』(1990)①
第14回	K. コルドン『壁を背にして(下)』(1990)②
第15回	到達度確認

授業方法(対面授業の場合)

感染対策を行いながら対面での授業を考えています。演習形式で行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔に切り替える必要性が出てきた場合は、Zoomを使った同時配信型の授業を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にテキストを読んできてください(2時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の予習が「課題」です。授業中に確認し、コメントします。

教科書コメント

授業で扱う作品は各自、購入してください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350301204	科目ナンバリング	135F624
講義名	ドイツ文学演習(4)(大学院)		
副題	ドイツ児童文学における「過去の克服」の実践		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 木曜日 2時限 対面授業		

授業概要

第二次世界大戦後のドイツ文学はナチス・ドイツの過去との対峙から始まりましたが、それは児童文学の場合も例外ではありません。例えば、「過去」とは一見、無関係なように見えるミヒャエル・エンデの作品も、絶滅戦争やユダヤ人の組織的殺人の根本にある徹底した合理的思考を批判しているという点で、過去と批判的に対峙していると言えます。

ドイツの児童文学をいわゆる「過去の克服」の文脈で読む場合、その文学が子ども向けに書かれている点、そしてその子どもが直接ナチス・ドイツの犯罪に加担していない点を考慮する必要があります。自らが直接関わったわけではない過去を児童文学の題材にすると、そこではどんな過去がどんなふう提示されるのでしょうか？この授業では、H. P. リヒターによる自伝的三部作、K. コルドンのベルリン三部作、R. イーザウの歴史改変SFを例に、児童文学における「過去の克服」の実践に迫ります。

到達目標

- ・作品を手掛かりに、戦後ドイツの歴史認識について理解を深める。
- ・大人向けに書かれた文学と子ども向けに書かれた文学の共通点と差異について理解を深める。
- ・作品について、その文学的特徴を分析できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	K. コルドン『はじめての春(上)』(1993)①
第2回	K. コルドン『はじめての春(上)』(1993)②
第3回	K. コルドン『はじめての春(下)』(1993)①
第4回	K. コルドン『はじめての春(下)』(1993)②
第5回	R. イーザウ『暁の円卓』(1999～2001)①
第6回	R. イーザウ『暁の円卓』(1999～2001)②
第7回	R. イーザウ『暁の円卓』(1999～2001)③
第8回	R. イーザウ『暁の円卓』(1999～2001)④
第9回	R. イーザウ『暁の円卓』(1999～2001)⑤
第10回	R. イーザウ『暁の円卓』(1999～2001)⑥
第11回	R. イーザウ『暁の円卓』(1999～2001)⑦
第12回	R. イーザウ『暁の円卓』(1999～2001)⑧
第13回	R. イーザウ『暁の円卓』(1999～2001)⑨
第14回	R. イーザウ『暁の円卓』(1999～2001)⑩
第15回	到達度確認

授業方法(対面授業の場合)

感染対策を行いながら対面での授業を考えています。演習形式で行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔に切り替える必要性が出てきた場合は、Zoomを使った同時配信型の授業を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にテキストを読んでください(2時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の予習が「課題」です。授業中に確認し、コメントします。

教科書コメント

授業で扱う作品は各自、購入してください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350301205	科目ナンバリング	135F624
講義名	◆ドイツ文学演習(5)(学部:文学・文化コース 専門演習)(大学院)		
副題	文化学から考察する文学作品		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

文学作品をそれぞれの時代の文化の複合的な要素のなかで考察する文化学という観点について学び、この観点から具体的に作品を読み解いていく試みを行います。どの作品を取り上げるかは、参加者の関心を考慮した上で決定します。

到達目標

文化学の視点とその方法の特徴を知るとともに、その方法を具体的に作品分析に応用することができるようになることを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	文化学の方法
第3回	文化学の特徴
第4回	文化を複合的に見るということ
第5回	作品分析(1)
第6回	作品分析(2)
第7回	作品分析(3)
第8回	作品分析(4)
第9回	作品分析(5)
第10回	作品分析(6)
第11回	作品分析(7)
第12回	作品分析(8)
第13回	作品分析(9)
第14回	作品分析(10)
第15回	まとめ

授業計画コメント

毎回の授業で扱うテキストの範囲について、まずは要約をしていただきます。その後で理解度に応じて、精読を行います。

授業方法(対面授業の場合)

演習方式で行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型で行います。内容は対面授業と同様です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

あらかじめ指定した範囲のテキストの予習(要約も含む)。およそ2時間の予習を求めます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業への出席態度、特に積極性を重視します。博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、かならず発表を行うことを前提とします。またそれぞれ異なる基準により評価します。学部学生の場合には、大学院学生とは異なる基準により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回指定するテキスト範囲については、授業内でコメントを行います。

教科書コメント

テキストは授業中に指示をします。

参考文献コメント

授業中に指示します。

その他

欠席する場合には、連絡をしてください。また欠席した場合には、課題を提出してください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350301206	科目ナンバリング	135F624
講義名	◆ドイツ文学演習(6)(学部:文学・文化コース 専門演習)(大学院)		
副題	文化学から考察する文学作品(2)		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

第1学期に学んだ文化学的分析方法を、具体的な作品に応用して作品分析を行います。また各自でテーマを決めて、発表をしていただきます。

到達目標

文化学的方法論について学び、それを実際の作品分析に応用することができるようになることを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	文化学的方法論の復習(1)
第3回	文化学的方法論の復習(2)
第4回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-1)
第5回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-2)
第6回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-3)
第7回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-4)
第8回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-5)
第9回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-6)
第10回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-7)
第11回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-8)
第12回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-9)
第13回	受講者による発表(1)
第14回	受講者による発表(2)
第15回	まとめ

授業計画コメント

テキスト読解に関しては、要約を含めて準備しておいてください。

授業方法(対面授業の場合)

まずは該当部分についての要約を行っていただきます。理解度に応じて精読を行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型オンラインの授業とします。内容的には対面授業と同様です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予め指示した範囲のテキストの予習(要約も含む)。2時間程度の予習が必要です。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、かならず発表を行うことを前提とします。またそれぞれ異なる基準により評価します。学部学生の場合には、大学院学生とは異なる基準により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

指定された箇所についての発表は、授業中にコメントをします。

教科書コメント

使用テキストについては授業中に指示します。

参考文献コメント

参考文献は授業中に指示します。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350303201	科目ナンバリング	135F614
講義名	ドイツ語史演習(1)(大学院)		
副題	初期新高ドイツ語時代のテキストを読む		
英文科目名	Seminar in History of the German Language		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 火曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

ドイツ語史の時代区分において初期新高ドイツ語時代(1350～1650年)は、中高ドイツ語時代(1050～1350年)から新高ドイツ語時代(1650年～)へ移行する過渡期とみなされています。この授業では、この時代に書かれた文書を実際に講読することによって、音韻、文法(語形変化と統語論)、語彙、テキスト構成の面でドイツ語文章語がどのように改新されていったのかを見ます。

到達目標

歴史的段階のドイツ語を読む能力を付けること。言語変化について洞察を深めること。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	文学:『ボヘミアのアッカーマン』(1400年頃)－その1
第3回	文学:『ボヘミアのアッカーマン』(1400年頃)－その2
第4回	公文書:市政記録簿における借金返済の証文(ドレスデン、1486年)－その1
第5回	公文書:市政記録簿における借金返済の証文(ドレスデン、1486年)－その2
第6回	文学:『ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら』(1515年)－その1
第7回	文学:『ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら』(1515年)－その2
第8回	宗教:ルター訳新訳聖書の1522年版と1546年版の比較－その1
第9回	宗教:ルター訳新訳聖書の1522年版と1546年版の比較－その2
第10回	文芸学:M. オーピッツ『ドイツ詩学の書』(1624年)－その1
第11回	文芸学:M. オーピッツ『ドイツ詩学の書』(1624年)－その2
第12回	公文書:魔女裁判尋問記録(ゲッティンゲン、1649年)－その1
第13回	公文書:魔女裁判尋問記録(ゲッティンゲン、1649年)－その2
第14回	総括
第15回	到達度の確認

授業方法(対面授業の場合)

対面授業は行わない。

授業方法(遠隔授業の場合)

ZOOMを使った同時配信型の遠隔授業を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

歴史的段階のテキストであるので、十分時間をかけて予習する必要があります(約90分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

読解に際して難しさを伴う箇所についてはとくに、どこに困難点があるのか、どう考えれば理解が進むのかについて随時説明します。

参考文献コメント

授業中に指示します。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350303202	科目ナンバリング	135F614
講義名	ドイツ語史演習(2)(大学院)		
副題	新高ドイツ語時代の文法書と辞書を読む		
英文科目名	Seminar in History of the German Language		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 火曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

近世の文法書と辞書は、「正しさ」を成文化しようとしたものです。この授業では、17世紀と18世紀の文法書と辞書における記述を実際に読むことによって、2つの世紀の間に文法と語彙の「正しさ」が最終的にどのように収斂していったのかを追ってみたいと思います。どの文法項目と見出し語の単語を読むのかは、受講生の関心に応じて決めます。

到達目標

17世紀・18世紀のドイツ語に関する読解力を付けること。言語規範の形成過程について知見を得ること。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	J. G. Schottel: Ausführliche Arbeit von der Teutschen HauptSprache (1663) –その1
第3回	J. G. Schottel: Ausführliche Arbeit von der Teutschen HauptSprache (1663) –その2
第4回	K. Stieler: Der Teutschen Stammbaum und Fortwachs oder Teutscher Sprachschatz (1691)–その1
第5回	K. Stieler: Der Teutschen Stammbaum und Fortwachs oder Teutscher Sprachschatz (1691)–その2
第6回	J. Ch. Gottsched: Grundlegung der Deutschen Sprachkunst (1748)–その1
第7回	J. Ch. Gottsched: Grundlegung der Deutschen Sprachkunst (1748)–その2
第8回	J. Ch. Adelung: Versuch eines vollständigen grammatisch-kritischen Wörterbuches der Hochdeutschen Mundart. (1774-1786)–その1
第9回	J. Ch. Adelung: Versuch eines vollständigen grammatisch-kritischen Wörterbuches der Hochdeutschen Mundart. (1774-1786)–その2
第10回	J. Ch. Adelung: Deutsche Sprachlehre. Zum Gebrauche der Schulen in den Königlichen Preußischen Landen. (1781)–その1
第11回	J. Ch. Adelung: Deutsche Sprachlehre. Zum Gebrauche der Schulen in den Königlichen Preußischen Landen. (1781)–その2
第12回	J. H. Campe: Wörterbuch der deutschen Sprache (1807-1811)–その1
第13回	J. H. Campe: Wörterbuch der deutschen Sprache (1807-1811)–その2
第14回	総括
第15回	到達度の確認

授業方法(対面授業の場合)

対面授業は行わない。

授業方法(遠隔授業の場合)

ZOOMによる同時配信形式の遠隔授業を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

歴史的段階のドイツ語であるので、十分に準備をして授業に臨む必要がある(90分程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

読解に際して難しさを伴う箇所についてはとくに、どこに困難点があるのか、どう考えれば理解が進むのかについて随時説明します。

教科書コメント

授業中に指示します。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>